

システム開発の生産性向上技術*

川崎製鉄技報
20 (1988) 2, 151-157

Techniques for Improving Productivity of System Development

要旨

川崎製鉄技報 20 (1988) 2, 151-157

1979	'80	'81	'82	'83	'84	'85	'86	'87
Testing of		Methodology and structures						

Table 1 Typical content of data item

1. Data name

2. Description

標準化活動で追加，改善した内容は以下の事項である。

- (1) PRIDE をベースにしつつ，当社の実情に合わせて，ドキュ

Table 2 K-PRIDE database design process

Phase	Activity	Output
-------	----------	--------

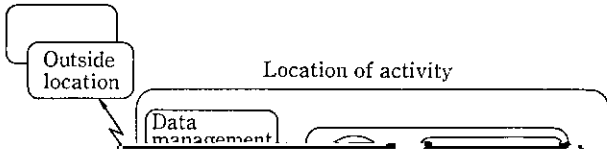


Table 3 Data management responsibilities and functions

Level of responsibility	Functions
Data	1. Intra-company normalization of data

を行う。人はコンピュータの誘導にしたがって、プログラムの上位から下位に順次、メニューとして表示された部品を選択し、また入力要求に応じて可変部分を決定していく。これが完了したら、バッチ方式でCOBOLプログラムを生成する。

- (4) プログラムはすべて部品の組立により生成し、生成されたプログラムは完成品となる。すなわち生成後のプログラムの手帳

4 効果

4.1 開発生産性の向上

Fig. 6に水島製鉄所における開発生産性の実績の推移を示す。

正は一切不要である。

回の技術開発前と比較すると、生産性が約2倍に向上している。な

(1) システム開発体制の確立による対応 情報システム開発方針

5 今後の課題

論PRIDEを導入し、これに当社の実情にあわせた改善を行って標準化を進めるとともに、各事業所でのデータの一元管理を